
それぞれの想い - a f t e r -

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それぞれの想い - a f t e r -

【Nコード】

N 6 4 6 7 B

【作者名】

ペロコ

【あらすじ】

前作「それぞれの想い」の正当なる続編です。もちろん、快斗×青子の物語。ホワイトデー編です。今回もリアルタイム進行。本編3話＋後書きです。

3月12日　く快斗く（前書き）

オレの質問に、彼女は、それはそれはきれいな、そしてオレの好きな笑顔で答えた・・・

「怪盗キッド!」と・・・

3月12日　く快斗く

みんな、久しぶりだな。オレは黒羽快斗。

先月のオレの話、読んでくれたか？読んでない人は先にそっちを読むことをおススメするぜ？

さて、今日は3月12日。みんなは知ってるか？あさつてがホワイデーだってこと。

え・・・？知ってる？そんなの常識？そ・・・そうなのか！？

・・・つと、シヨック受けてる場合じゃねえや。実はさ。先月結局青子にチヨコもらえたじゃん？半ば請求する形だったわけだけどさ。で、ホワイデーってのは、男がチヨコもらった女の子にお返しする日なんだろう？

だから、オレもきちんとお返ししようと思うんだ！！で！だ。

何したらいいんだか、さっぱり分かんねえんだよ・・・。

青子って、オレにあげないつもりだったらしいし（それを知ったときはシヨックだったな・・・）。毎年くれてたからさ。

っていうか、あれってもしかして告ったことになってしまふのか！？あの子の青子、別にな変わった様子とか無かったから別に気にしてないんだろうけどさ。

・・・あ、なんか自分で自分に同情したくなってきた・・・（泣）

って、話がそれた！！

それでだ。青子に何かほしいものがあるか、聞いてみたわけよ。ど

うせなら聞いてそれをあげようと思って。

「な、なあ・・・青子・・・？」

「何？」

「今・・・さ、何かほしいものとかある？」

「え？どうしたの？急に・・・」

「別に何でもねえよ・・・で？ある？」

「え・・・んゝつとねえ・・・えつと・・・あっ！！」

「な、何かあんのか！？」

「怪盗キッド！！」

・・・そりゃ、無理ですよ、青子サン。

前にも言われたこと、あつたなあ・・・そつえば。

しかも、その後さんざんキッドの悪口を語られたオレって・・・。

本当、どうしたらいいわけ？

3月12日　く快斗く（後書き）

はい、みなさんこんにちは。ペロコです。

先月、「それぞれの想い」の後書きにて書いていたように、調子にのって書いてしまいました。続編。

彼らの1ヵ月後です。

今日は快斗ですね。

何といますか……。結構真剣に悩んでるみたいですね（笑）先月、『要求』という形で青子ちゃんのチョコをゲットした彼は、1ヶ月本気で悩んでいたみたいです。

さて、明日は、青子ちゃんサイド。

あさつてのホワイトデー……。みなさんはお返しあげますか？

それでは、評価・感想などいただけたら嬉しいです。

これからよろしく願いますね。

3月13日　＼青子＼

私、中森青子！先月は、青子の悩みを聞いてくれてありがとう。あれから、一応快斗にチョコも渡せたし、本当によかった。

ねえねえ、みんな、聞いて！！

昨日、快斗が急にね、「何かほしいものあるか？」て聞いてきたの。もう、青子ビックリしちゃってさあ・・・。

そんな風に、ほしいものあるかなんて聞かれたって、困っちゃうよね！？そうだよな？

だから、青子ね、必死に考えた後で、「怪盗キッド」って答えたの。前に誕生日プレゼント何がほしいか聞かれた時も、冗談混じりで怪盗キッドって言ったんだけど・・・。そしたら、快斗あきれちゃって・・・。

今回もあきれられちゃったんだよね・・・。

でもね！！

お父さんを少しでも休ませてあげるには、キッドが捕まっちゃえばいいのよ！

そしたら、お父さんは睡眠時間もまともに取れるし、食事だってきちんと取れるのよ！

あんな泥棒、早くつかまっちゃえばいいのに・・・

って思ってたんだけど・・・快斗、困ってたなあ。

まさかキッド連れてこれるわけないしね。

青子が捕まえちゃったらお父さんのお仕事、なくなっちゃうもんね・・・。

じゃあ、やっぱりキッドはダメかあ。

でも、青子はいつだって快斗がくれるものだったら嬉しいのに……。

まあ、そんなことめったにないんだけどね。

本当、乙女心が分かってないんだから!!

それにしても、どうしたんだろう? 快斗。

急にほしいもの聞くなんてさ。……何かあったっけ?
特に思い当たることないんだよね。

さては快斗、青子に何かした!?

で、それのお詫びに……とか? ……でも、いつもと変わらない
しなあ……。

熱でもあるのかな?

3月13日　＼青子＼（後書き）

みなさま、こんにちは。ペロコです。

今日は、青子ちゃんサイド！！

天然な彼女・・・というイメージというか、偏見？を持っているので、かなり天然発言をしていただきました（笑）

見当違いの方向へ誤解している彼女を書くのは楽しいです、

それでは、明日のホワイトデーをお楽しみに

評価・感想などお待ちしております！！

これからもよろしく願いますね。

3月14日　くホワイトデーく

3月14日。世間では、今日のことを“ホワイトデー”と呼ぶ。

2月14日のバレンタインデーでチョコなどをもらった世の男子が女子にお返しをするという・・・なんとも、お菓子会社に見事に振り回されてるものである。

さて、先日、このホワイトデーにあげるお返しについて悩んでいたある高校生。

名を黒羽快斗といった。

彼はその後どうしたのか・・・

ちょっと覗いていませんか？

その男、黒羽快斗は、先日から悩み続けていた結果、きちんと何をするかを決めて、放課後家に荷物を置いたら黒羽家に来るように、彼女・・・青子に言っていました。

学校終了後、快斗はダッシュで家に帰り、青子の到着までに必死に準備を進めていました。

と、そこに言われたとおり荷物を家に置いてから青子がやってきました。

もともと「ドアは開けておくから勝手に入ってくれ」といわれてい

た青子は、

素直にガチャとドアを開け、黒羽家の中へ・・・。

しかし、予想に反して家の中は真っ暗。

戸惑いながらも、家の中に・・・中に・・・

「か、快斗・・・？いるんでしょう？・・・お、おどかさうたってそうはいかないんだからね！？」と震える声でささやくように言いつつ、リビングへ。

そつと、ドアを開け、「か・・・快斗？」とおそろおそろ中に入ると、

「M s . A o k o ! W e l c o m e t o K a i t o ' s M a j i c S h o w ! ! さあ・・・今宵のショーをしっかりと楽しんでくださいね！」

という声に、ビクツと体を固まらせていると、

P O M

と、煙が上がり、その煙が晴れるとそこには微笑をたたえた快斗の姿が。

「か、快斗・・・？」という青子の声にかまわず、快とが指をパチンツ！と鳴らすと、

そこにはピンクの花びらが舞う・・・それはきれいに・・・まるで夜桜の花吹雪のように・・・

とまたパチンツ！と音がして、今度はそれらがシャボン玉に。

思わず青子が「わあ・・・」と歓喜の声をもらすのを聞いた快斗は

さらに指を鳴らす。

すると、シャボン玉は全て弾けてしまい、少し風がおこる。

思わず青子は目を閉じ、再びその瞳を見せた時には、部屋は明るく・
・いや、ろくそくのような明かりが宙に浮いている。

そして、その淡い光の中には青子をいつも笑顔にしてくれる奇術師、
快斗の姿。

目をぱちくりさせている青子に快斗は近づき、右手を目の前に差し出す。

そして、「オレ、黒羽快斗って言うんだ！よろしくな！」といつも
のあのバラの花を出す。

「ありがとう・・・」と言って受け取った青子に今度は左手を差し出し、

小さな声でカウント。「Three・・・two・・・one・・・」

「POM」と、そこには小さなかわいらしいラッピングのしてある袋が。

「え？」と青子は快斗を見ると、照れくさそうに、

「バレンタインのお返しだよ！・・・チョコ、うまかったから・・・」

と、頬を染めつつ答える快斗。

「あ、ありがとう！開けてもいい？」と尋ねる青子に

「おう！」と今だ照れくさそうに答える快斗。

ガサガサと袋の中身を出してみると、それは手のひらに乗る・・・

「ピン？」

そう、かわいいヒマワリのついた髪留め。

「青子も、こういったの付けければ少しは大人っぽく見えるだろうぜ？」と

ニヤニヤしながら言う快斗に、

「失礼ねえ！」と怒りながらも、やっぱり嬉しい青子は、

「快斗・・・ありがと。」とキレイに微笑んで言ったんだとか。

そして、それを見た快斗はしばらく固まってしまったとか・・・

それは、2人だけのヒミツ。

翌日、さっそく青子がピン止めを付けてきて、友達に「どうしたの？それ」と聞かれ、素直に

「快斗にもらったの！」と嬉しそうに言う青子を見て、辺りは騒然となったとか。

これは、暖かくなってきた3月の、ある高校生の物語。

あとがき

みなさま、こんにちは。ペロコです。

ハイ、調子に乗ってやってしまった、ホワイトデー編！
書いてて楽しかったです♪

今回もリアルタイムということでお送りしましたが・・・いかがでしたか？

純粹な快斗×青子のお話。

前は、紅子ちゃんに友情出演を果たしていただきましたが、今回は誰もいません！

そして、今日、3月14日はうちには珍しく一人称ではありませんでした！

ナレーター風……。いやぁ・・・書きにくかったですね（笑）
久々に書きましたし……。

もちろん理由は“マジックをやるから”です。
マジックさせて書くのに、一人称は書きにくかったので……。
ということで、本当に久しぶりに（「3連休の災難」以来？）ナレーター形式でした。

さて、そのマジックのことですが……。

ここでは触れないでおきましょう（逃）

はつきり言って、仕掛けとかタネとか全く考えておりません！
こんなの出来たらいいな～という程度のもんです。

本編の内容についてですが・・・
快斗にはマジックをやっていたきました。もう、これしかないだ
ろーと。

青子を喜ばせるなら、ずばり、マジックー！

あと、ピン留めのヒマワリというのは、青子のイメージがヒマワリ
だからです。

あ、ちなみに、これは作者ペロコの勝手なイメージです。

終わり方・・・という風に終わるかすごく悩んだんですけど、
あいまい表現！・・・って言っても、けっこう細かく書いてますが、
詳しくは書かないことにしました。

おそらく・・・というか、絶対ですが、この「それぞれの想い」の
シリーズはこれで終わりです。続編は書くつもりはありません。
次、何か違うものを書くとしたら、探偵団のお話とか・・・と考えて
います。

シリアス風なものにも挑戦してみたいです。

今まで、ほのぼのとしたものしか書いたことなかったので・・・。

ですが！まだ当分は「キッドside」の方を進めたいと思います。
それでは、ここまでお付き合いありがとうございました。

これからもよろしく願います。

評価・感想などいただけたら嬉しいです。では、「キッドside」
で。

2007.3.14
入□□

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6467b/>

それぞれの想い - a f t e r -

2010年10月10日13時58分発行